

**第 1 期土佐清水ジオパーク基本計画
後期アクションプラン
2026 - 2029**

土佐清水ジオパーク推進協議会
2026 年 6 月 29 日 策定

目 次

保全	－地域を守る－	3
No.1	サイトの管理と保全	3
1-1	サイトごとの保全方針の検討	3
1-2	関係団体と協調した保全活動	4
1-3	利用ルールの特明確化と周知	4
No.2	モニタリング	4
2-1	定期的なモニタリングとデータの蓄積	5
2-2	モニタリング成果の可視化と市民参加	5
No.3	調査研究	5
3-1	大学や研究機関との連携強化	5
3-2	調査研究に関わる資料の収集および活用	6
3-3	調査研究活動に関わる支援	6
No.4	無形文化遺産の保全	7
4-1	調査・目録作成	7
4-2	無形文化遺産の啓発	7
教育活動の推進	－地域に新たな価値と文化を－	8
No.1	学校教育との連携	8
1-1	学校での学習機会の拡充	8
1-2	教員向け研修の継続と拡充	8
No.2	防災学習の推進	9
2-1	自然災害碑や防災施設等を活用した学習	9
2-2	防災・減災を伝える人材育成	10
地域経済の発展	－地域をうるおす－	11
No.1	ジオツーリズムの推進	11
1-1	ジオガイド養成	11
1-2	ジオツアーの販売促進	11
1-3	誰もが楽しめるツーリズムの推進	12
1-4	多言語対応ジオツアーの提供	12
No.2	環境整備	13
2-1	表示物整備計画の整理	13
2-2	表示物などによる可視性の確保	13
2-3	周遊コースの提案	14
2-4	エリア玄関口での可視性の確保	14
No.3	地場産品の魅力発信	15
3-1	ジオストーリーを活用したブランディング	15

3-2 地域に根差した産品の魅力発信	16
地域の活気づくりー地域ににぎわいときらめきをー	17
No.1 広報広聴	17
1-1 情報発信	17
1-2 講演会やイベントの実施	18
No.2 拠点施設の充実	18
2-1 ジオパーク拠点施設の役割強化	18
2-2 ジオパーク展示等の磨き上げ	19
No.3 パートナーシップ・ネットワーク活動の推進	19
3-1 研究機関、事業者、地域団体との連携促進	19
3-2 行政との連携促進	19
3-3 ジオパークネットワークへの参画	20
No.4 持続可能なまちづくり	20
4-1 地域内でのごみの削減、リサイクルの推進	20
4-2 生物多様性への理解を深める	21
No.5 持続可能な組織運営	21
5-1 組織のあり方の検討	21
5-2 予算の確保	22
5-3 多様な人材の確保と育成	22
5-4 ジェンダーバランス、多様性の確保	23

保全 — 地域を守る —

地形、地質遺産といった「大地の遺産」をはじめとする地域資源の保全は、ジオパーク活動において核となる重要な取り組みです。地域における地質的価値が認められる場所や、大地とのつながりの上に成り立っている生態系や文化的に重要な場所をサイトとして定め、保全を図ります。サイトの価値や情報は住民や来訪者と共有し、その大切さを共通認識とした上で、地域の宝を私たち住民自身の手で保全していくことが重要です。サイトの保全や活用については関係者との協議・連携をもって実施します。さらに、調査研究活動の振興をおこない、地域の価値のさらなる掘り起こしを進めます。

No.1 サイトの管理と保全

土佐清水ジオパークでは、ジオパークの理念のもと、大地の遺産をはじめとする地域資源を保全していきます。土佐清水ジオパークにおける地質・地形遺産の多くは足摺宇和海国立公園の範囲内にあり、自然公園法によって保護されています。また、いくつかの重要なサイトは文化財保護法の対象となっています。

1-1 サイトごとの保全方針の検討

貴重な遺産であるサイトの価値を損なわずに保全・活用していくためには、明確なビジョンと計画に基づいて適切な管理が行われる必要があります。土佐清水ジオパークでは、2022年に保全管理計画の改定をおこない、サイトの選定基準やモニタリングの手順について決めました。これによって、土佐清水ジオパークにおけるサイトの取り扱いの基本が定まったことになります。しかし、サイトは個々に状況が異なり、必要な保全措置やその緊急性も様々です。サイトの保全を限られたリソースで確実に行的っていくためには、サイトごとの保全の優先度を検討し、優先度の高いサイトから保全措置を実施していくことが必要です。今後、それぞれのサイトの課題、保全状況、利用状況、保全の緊急性を整理し、サイトごとの保全の優先度をつけた上で、優先度の高いサイトについて、具体的な保全措置の検討と決定を行います。保全措置の検討にあたっては、環境省、行政、地域住民、観光事業者など各サイトの保全・利用に係る関係者と十分に協議し、みなが納得できるものにする必要があります。

取り組み	目標値	備考
①サイトごとの保全の優先度の検討	2026 年度末までに実施	計画・保全部会の実施 2025 再審査 指摘事項 3 2025 再審査 指摘事項 5
②優先度の高いサイトの保全措置の決定	優先度の高いものから 1 年間に 2 件ずつ	2025 再審査 指摘事項 3 2025 再審査 指摘事項 5

《連携団体》計画・保全部会、顧問、研究者、環境省

1-2 関係団体と協調した保全活動

各サイトについて、関係者と連携し、1-1 で定めた保全措置を協調して実施していきます。一部のサイトでは、すでに地域や環境省、研究機関と連携したサイト保全活動が実施されています。このような良い事例を参考に、保全の優先度が高いサイトにおいて保全措置の実施体制を構築していきます。

取り組み	目標値	備考
①1-1 で定めた保全措置の実施	1-1 で定める	2025 再審査 指摘事項 3 2025 再審査 指摘事項 5

《連携団体》計画・保全部会、顧問、研究者、環境省、市、県

1-3 利用ルールの明確化と周知

貴重なサイトを保全し、残していくために、持続可能なサイト利用のルールの明確化が必要です。また、個別のサイトの状況を鑑み、特に利用に注意を必要とするサイトでは、それをルール化する必要があります。そのルールは広く周知され、サイトを訪れる人はだれでも知ることができるようにしなければなりません。2019 年度以降に設置したサイト解説板（10 基）や、ジオパークで発行したガイドマップ（2 種）にはフィールドマナーサインを記し、マナーの周知を行っています。今後も解説板の更新や新設、パンフレット発行の機会にはフィールドマナーサインを掲載し、引き続き周知に取り組んでいきます。

取り組み	目標値	備考
①サイト解説板の更新、新設の際にフィールドマナーサインを明示	適宜実施	
②利用ルールの Web サイトへの掲載	2026 年度実施	

《連携団体》計画・保全部会、顧問、研究者、環境省、市、県

No.2 モニタリング

サイトの定期的なモニタリングとデータの蓄積は、適切にサイトの現状を把握し管理を行っていくために重要です。2022 年に策定した「土佐清水ジオパークにおける資源の保全計画」では、地質・地形サイトにて 2 年に一度以上の頻度で、自然サイト及び文化サイトにて 1 年に一度以上の頻度でモニタリングを実施することと定めています。しかし、持続的なサイト管理のためには、事務局だけでなく、地域住民をはじめとする関係者との連携と情報の共有が不可欠です。地域ぐるみで価値を共有し、守っていく体制構築が必要です。

2-1 定期的なモニタリングとデータの蓄積

サイトの定期的なモニタリングを継続し、確実にサイトの状況を把握するようにしなければなりません。サイトに問題が生じた場合は、土佐清水市、環境省、観光協会等の関係者に迅速に情報を共有する必要があります。また、モニタリングの結果を蓄積することで、サイトの経年変化の評価や季節による見ごろなどの情報発信に活用していきます。

取り組み	目標値	備考
①地質・地形サイトの2年に1度のモニタリング実施	2年に1回以上	
②自然・文化サイトの1年に1度のモニタリング実施	1年に1回以上	
《連携団体》計画・保全部会、観光ビジネス部会、ジオガイド、市民団体		

2-2 モニタリング成果の可視化と市民参加

モニタリング成果が閲覧可能なウェブサイトを整備します。ウェブサイトを通して、モニタリングの情報を適切な関係者に迅速に共有すると共に、多くの方々が気軽にサイトの状況を報告可能な体制を構築します。

取り組み	目標値	備考
①モニタリング成果をウェブサイトで可視化	2026年度中に整備	2025再審査 指摘事項3
②市民参加可能なモニタリング体制の構築	2026年度中に整備	2025再審査 指摘事項3
《連携団体》計画・保全部会、観光ビジネス部会、ジオガイド、市民団体		

No.3 調査研究

3-1 大学や研究機関との連携強化

土佐清水ジオパークでは、大学や研究機関と連携しながら地域資源の研究を進めています。前期アクションプランでは、組織同士での継続的な連携体制の構築を目標とし、一定の成果を上げました。2025年には、公益財団法人高知県牧野財団、高知地方気象台と調査研究や普及啓発活動についてパートナーシップを締結しました。今後も様々な研究機関と連携して地域資源の掘り起こしを進めるとともに、関係の深い機関とはパートナーシップを締結し、長期的な協力関係の構築に努めます。

取り組み	目標値	備考
①大学・研究機関とのパートナーシップの締結	2030年度までに3件	
《連携団体》大学、研究機関、顧問		

3-2 調査研究に関わる資料の収集および活用

土佐清水ジオパークでは、地域資源の価値を示す様々な資料の収集をおこなっています。前期アクションプランでは、その目録作成を進めてきました。後期アクションプランでは、より多くの方々に地域資源の価値を知っていただくために、収集した標本の情報を公開できる体制の構築を目指します。さらに、地域資源の価値を一体的に整理し発信する役割を果たすべく、土佐清水に関係する資料の収集を引き続き行っていきます。2028年には土佐清水市出身の偉人であるジョン万次郎が NHK の大河ドラマで取り上げられることが決まりました。しかしこれまで、土佐清水ジオパークではジョン万次郎とジオパークの関係について十分整理できていませんでした。地域内外の関心が高まるこの機会にジョン万次郎についてジオパークの視点から情報収集とストーリー作りを行いより多角的に地域をとらえる契機とします。

取り組み	目標値	備考
①教育用地質標本の貸出し・情報公開	2026 年度までに整備	2025 再審査 指摘事項 5
②生物学的な標本の情報公開	2026 年度までに整備	
③ジオパーク関連文献の充実	土佐清水に関連する文 献は可能な限り全て収 集	
④ジョン万次郎に関する資料の収集・活用	2027 年度までに実施	
《連携団体》計画・保全部会、教育・啓発部会、学校、大学・研究機関、ミュージアムネットワーク、市民図書館、土佐清水市大河ドラマ「ジョン万」推進委員会、ジョン万 EXPO 推進協議会		

3-3 調査研究活動に関わる支援

調査研究活動に関わる支援を充実させることで、ジオパークエリア内における地域研究を振興します。2018 年から学術研究助成事業を実施し、ジオパークエリアで研究を行う研究者の支援をおこなっています。研究者のニーズの聞き取り等もおこないながらさらなる支援体制の拡充が必要です。また、研究成果を地域社会へ還元していくため、ジオパークエリアにおける研究成果に関する講演会の実施を行っていきます。

取り組み	目標値	備考
① 学術研究助成事業の継続	毎年実施	
② 調査研究支援、サポート体制の拡充	適宜実施	
③ 研究成果に関する講演会の実施	1 年に 1 回以上	
《連携団体》顧問、大学・研究機関		

No.4 無形文化遺産の保全

人の営みや伝統文化もジオパークで保全すべき貴重な遺産です。新型コロナウイルス感染症の影響で、2020年から2021年にかけて多くの伝統行事が中止になったこともあり、無形文化財が急速に失われている危機的状況にあります。ジオパークでは、文化財行政とも連携しながら、無形文化財の目録やデジタルアーカイブ保存など、無形文化財の保全に取り組みます。

4-1 調査・目録作成

文化財保護行政などと連携をとりながら、地域の無形文化遺産の調査と目録作りを進めます。これは「3-2 調査研究に関わる資料の収集および活用」と同じですが、無形文化財遺産の保全は喫緊の課題であり、重要度が高いことから、独立した項目として扱っています。また、それぞれの無形文化遺産について、土佐清水の大地や自然との関わりを整理します。さらに、文章や映像など、様々な方法を用いた記録にも取り組んでいきます。

取り組み	目標値	備考
①無形文化遺産の洗い出し	2027年度までに実施	
②各無形文化遺産について土佐清水の大地や自然との関わりを整理	2029年度までに実施	
③様々な媒体を用いた無形文化遺産の記録		
《連携団体》生涯学習課、中央公民館、郷土史同好会		

4-2 無形文化遺産の啓発

無形文化遺産を保全していくいちばんの方法は、暮らしの中で受け継がれていく「動態保存」であるといえます。しかし地域の人口減少や生活スタイルの変化で伝統食や年中行事が継承されず消えつつあります。土佐清水ジオパークではこれまで、郷土料理の普及を行うイベント「作って食べる食堂」などを開催し、無形文化遺産継承のための啓発活動をおこなってきました。今後機会を増やし、映像資料等を活用しつつ、一層啓発活動に取り組んでいきます。また、オンライン等を活用した新しい方法の模索も必要です。

取り組み	目標値	備考
① 無形文化遺産の啓発	年1回以上	関連項目: 経済発展 3-3
《連携団体》地区、生涯学習課、中央公民館		

教育活動の推進 ― 地域に新たな価値と文化を ―

私たちが暮らす地域と地球の価値を知ることにより、地球への意識を高め、地域住民全員がジオパーク活動に何らかの関わりを持てるよう、ジオパークの学びや研究を通じて新たな気づきや価値を見出す機会を提供していきます。

No.1 学校教育との連携

土佐清水ジオパークでは、地域の資源や環境などを学ぶ取組が実施されています。協議会では、環境省や民間団体、専門家などと連携し、小中学生を対象にジオパーク学習を進めてきました。また、市内唯一の高校である県立清水高等学校と締結した協定のもと、「未来共創科」の独自科目である「清水学際」にジオパークを取り入れています。一方で、小学校の休校・統合に伴って、これまで各地域で実施してきたジオパーク学習が継続できない例が出てきています。今後、体系的なカリキュラムの整備に加え、そのカリキュラムに則ってエリア内の全ての学校でジオパーク授業を実施する体制を構築します。

1-1 学校での学習機会の拡充

各学年の学習段階に合わせ、ジオパークを教材とした整合性・連続性のある学習内容となるよう、体系的なカリキュラムを作り、他機関と協力しつつ講義を実施します。カリキュラムに則って、エリア内のすべての学校でジオパーク授業を実施していきます。

取り組み	目標値	備考
①幼保・小・中・高ジオパーク学習目標と体系的なカリキュラムの策定	2026年度までに策定	2025 再審査 指摘事項 5
②エリア内のすべての学校でジオパーク授業を実施	毎年実施	2025 再審査 指摘事項 5

《連携団体》教育・ビジネス部会、各学校、教育委員会

1-2 教員向け研修の継続と拡充

ジオパーク活動で取り扱う事項は理科にとどまらず、社会科等他の科目にも関係します。また、学際的な視点から地域の多様な主体と連携して地域課題の解決に取り組むジオパーク活動の手法は、「総合的な学習（探究）」にも繋がるものです。そのため、科目に関わらずすべての教員からジオパークに関する学習の意義等について十分に理解を得ることが重要です。これまで、市教育センター理科部会と共同で教材の開発、市内小中学校の教員向けの教員向け研修の実施、幡多地域の教員向け研修会での情報発信等を行ってきました。今後も小・中・高校の教員向け研修を引き続き実施し、ジオパークの理解増進と教員との連携強化に努めます。

取り組み	目標値	備考
①教員向け研修の実施	年 2 回程度	
《連携団体》教育・ビジネス部会、各学校、教育委員会		

No.2 防災学習の推進

土佐清水ジオパークの地質・地形や大地の成り立ちに関心を持つことは、自然災害の本質的な理解につながります。昨今では特に南海トラフ地震に対する防災・減災の意識が高まっており、“いつか必ず来る地震”と認識して備えておくことが必要です。また、土佐清水ジオパークには、日本海拡大期の地震や津波、マグマ活動の痕跡といった変動帯で生きていることを強く感じさせてくれる大地の遺産があることから、「生きている惑星、地球」を発信しています。

土佐清水においては1946年の昭和南海地震をはじめ、歴史的に地震や津波のほか台風や豪雨などにより大きな災害を受けています。それらの災害の歴史は地層や地形などでも確認できるほか、それらの記録は石碑や地名、口伝として残されています。これらは、先人が遺してくれた貴重な災害の記録であり、未来への防災メッセージといえるでしょう。

これらの災害遺構や津波避難タワーなどをジオツアーに組み込み、自然災害について学んでいくことも重要な取組となります。今後も遺構や口碑の掘り起こしなどを通じて、防災・減災の啓発を進めていきます。

2-1 自然災害碑や防災施設等を活用した学習

土佐清水ジオパーク協議会が関係者と調査整理した自然災害を伝える石碑群は、災害を教訓として将来に伝える端的な教材です。児童・生徒だけでなく、地域の住民の皆さんにも石碑の意味するところ、保全の重要性について改めて理解していただくために、これらを活用した学習の機会を提供します。また、ジオパーク内にある津波避難タワーや津波避難路等防災関連施設を題材とした学習についても、市危機管理課やその他関係者と協力のもと機会を提供していきます。また、土佐清水ジオパークの拠点施設である竜串ビジターセンターにおいて南海トラフ地震を想定した避難訓練を含め、ジオサイト、自然サイト、文化サイトごとの避難経路の見直し、設定・訓練を市危機管理課と協力して行います。

取り組み	目標値	備考
①学校での自然災害碑等を活用した防災教育	-	認定審査 指摘事項 5
②市民向けの防災学習	年 1 回程度	認定審査 指摘事項 5
《連携団体》学校、危機管理課、自主防災組織、郷土史同好会、ジオガイド		

2-2 防災・減災を伝える人材育成

災害に対する知恵や教訓は、住民の皆さんに根づくことで初めて、いざという時の的確な行動に結びつきます。そのため、住民の皆さんが災害に対する知識と行動をしっかりと理解することが大切です。協議会は、土佐清水市関係各課および地域の防災組織、郷土史会、専門家などとの協力のもと、ジオパークの知識とともに上述した歴史的な災害遺構および防災・減災のあり方について学び、実践して、地域に伝えられる人材の育成を図ります。

取り組み	目標値	備考
①ジオツアーを通じた防災知識の普及啓発を 実施できる人材の育成	-	認定審査 指摘事項 5
《連携団体》危機管理課、郷土史同好会、自主防災組織、ジオガイド		

地域経済の発展—地域をうるおす—

ジオパークによる地域の経済発展は、ほかの事業同様「持続可能」でなければなりません。地域資源を守り、その価値を高めることや循環させることに重点を置き、事業者等と連携しながら進めていきます。

No.1 ジオツーリズムの推進

土佐清水における観光振興はまちづくりです。土佐清水にある全ての資源を守り活かし、自らが誇りを持って訪れる人達にもその価値を伝えていきます。土佐清水ジオパークでは、ジオパークの理念のもと、「持続可能な観光」及び「責任ある観光」を推進し、大地の豊かさを伝えながら、環境や社会問題への意識啓発など、観光客にとって新たな気づきや発見があるガイドツアーや体験・アクティビティの充実を図っていきます。

1-1 ジオガイド養成

ジオツーリズムの推進に欠かせないのが、地域の自然・文化を楽しく、わかりやすく伝える「ジオガイド」の存在です。ジオガイドの養成講座やスキルアップ研修を継続的にを行い、土佐清水の価値を広めることのできる人材を育てます。特に後期アクションプランでは、これまで土佐清水ジオパークを支えてきたジオガイドの皆様の知識と技術をベテランから若手・中堅に伝え、多様な世代がともに活動できる環境を整えます。さらに、専門員や外部講師から説明を「受ける」講座から、ガイドの経験を積めるようなガイド練習機会を増やしていきます。

取り組み	目標値	備考
①新規ジオガイド養成講座の実施	期間中に2ヶ年以上実施	
②ジュニアガイド制度の構築	期間中最初のジオガイド養成講座までに	2025 再審査 指摘事項 5
③既存ジオガイドのスキルアップ研修の実施	年3回以上	
④ジオガイド練習機会の増加	年3回以上	2025 再審査 指摘事項 2

《連携団体》土佐清水ジオガイド、観光ビジネス部会、観光商工課

1-2 ジオツアーの販売促進

2020年3月より竜串ビジターセンターやWebサイトでのジオツアーの販売を始めました。しかし、ツアーの販売は伸び悩み前期アクションプランでは目標値達成とはなりませんでした。後期アクションプランでは、ジオツアー販売促進のための具体的な方策を定めます。1つ目は、ジオツアーのプロモーションビデオ（PV）を作成し、ツアーの雰囲気や風景を動画で閲覧でき

るようにします。2つ目は、ウェブサイト上でジオガイド団体を紹介するページを作成し、ジオガイドのブランド向上や透明性を確保します。3つ目は、関係機関と協力しジオツアーの情報が、県内外の観光案内媒体で紹介されるようにします。これらの施策を通じて、ジオツアーの販売額向上を目指します。

取り組み	目標値	備考
①ジオツアーPVの作成	1年に1本以上	2025 再審査 指摘事項 2
②ジオガイド団体の可視化	2026 年度中	2025 再審査 指摘事項 2
③ジオツアー情報の露出向上		2025 再審査 指摘事項 1
④ ジオツアーの販売額向上	2029 年までに年間 15 万円	関連項目: 活気づくり 1-1④

《連携団体》土佐清水ジオガイド、竜串 VC、観光商工課、観光協会、観光ビジネス部会

1-3 誰もが楽しめるツーリズムの推進

SDGs（持続可能な開発目標）が浸透したことで「誰一人取り残さない」という意識が社会にもたらされました。しかし、土佐清水では極上の自然を体感できる反面、足場の悪いサイトも多く、天候や身体的な状況によっては楽しめないというバリアが存在しています。本事業では、そのようなバリアを取り払うべく VR（仮想現実）等の技術を用いて、土佐清水の景色をより多くの方に届けます。さらに、スロープや多目的トイレの有無等のバリアフリーに関する情報を発信することで、身体状況により移動が難しい方の旅行をサポートします。

取り組み	目標値	備考
①VR 映像の提供	2026 年度中	
②VR 映像の充実	2029 年度までに 2 本以上	
③バリアフリーモデルコースの作成・公開	2029 年度までに 1 本以上	

《連携団体》観光ビジネス部会、社会福祉法人、NPO 法人等、観光商工課、福祉事務所

1-4 多言語対応ジオツアーの提供

2010 年代から国内のインバウンド需要が高まりもあり、国内の外国人旅行者の数は年々増えています。後期アクションプランでは、日本国外から来た方でもジオツアーに申し込みしていただけるよう、ジオツアーごとに「日本語のみ」「やさしい日本語」「英語」等の対応言語を明示します。また、簡単な英会話や言葉が通じない中でも楽しい時間を演出する方法などを学ぶ研修を実施します。

取り組み	目標値	備考
①ジオツアー対応言語の可視化	2026 年度中	

②多言語対応のためのジオガイド研修の実 2029 年度までに 2 回
施

《連携団体》土佐清水ジオガイド、観光商工課、観光事業者、観光ビジネス部会

No.2 環境整備

ジオツーリズムの推進のためには、来訪者がそれぞれの希望に応じた楽しみ方ができるよう、エリア内の環境を整えていく必要があります。来訪者が必要な情報にアクセスでき、気持ちよくスムーズにジオツーリズムを楽しめるよう、可視性の確保やルート整備などを行っていきます。

2-1 表示物整備計画の整理

表示物は単に作成するだけでなく、サイトの価値やそれを利用する利用者の動向を踏まえ、最適な表示手法や内容を検討しなくてはなりません。2025 年再認定審査では、看板の設置場所や目的を踏まえて、看板の内容を検討するよう改善点が示されました。後期アクションプランでは、土佐清水ジオパークのストーリーを説明する上での個々のサイトの役割、来訪者の動線、情報発信媒体間の統一感を考慮し、看板、印刷物、ウェブ媒体等の整備計画の再整理を行います。この整備計画は整備期間、予算等を考慮し実行可能なものでなければなりません。なお、看板等の表示物は 1 つの躯体の設置費用が大きくかつ長期間利用されるものであるため、整備計画の整理は速やかに完了しなければなりません。

取り組み	目標値	備考
①解説板等整備の方針・優先度の見直し	2026 年度中	2025 再審査 指摘事項 4 認定審査 指摘事項 4
②情報発信媒体間の基本デザインの統一	2026 年度中	2025 再審査 指摘事項 4 認定審査 指摘事項 4
③効率的かつ効果的な解説板設置体制の検討	2026 年度中	2025 再審査 指摘事項 4 認定審査 指摘事項 4

《連携団体》観光・ビジネス部会、観光商工課、顧問

2-2 表示物などによる可視性の確保

可視性の確保は、2025 年の再認定審査で改善すべき点が最も多く示されました。土佐清水の地域資源の価値を来訪者に伝えるためには、土佐清水ジオパークやサイトの可視性を確保し、その場所が価値を有するものであるということを、来訪者に明示する必要があります。そのためには、媒体、設置主体に関わらずあらゆる観光案内表示にてロゴマークを表出するなどジオパークの可視性を確保する必要があります。本事業では 2-1 で定める表示物整備計画に基づき、表示物の整備を進めるとともに、より多くの関係機関に協力を仰ぎジオパークの可視性を改善

する必要があります。

取り組み	目標値	備考
①2-1 に基づく解説板等の整備	2-1 の表示物整備計画にて定める	2025 再審査 指摘事項 1, 4 認定審査 指摘事項 3, 4
②関係機関と協力したジオパーク可視性の向上	土佐清水市やジオパークのサイトに言及した全ての観光案内看板、印刷物、ウェブサイト等のうち、「土佐清水ジオパーク」が明示された表示物の割合が 50%以上	2025 再審査 指摘事項 1, 4 認定審査 指摘事項 3, 4, 7
《連携団体》観光・ビジネス部会、観光商工課、県、観光協会、環境省		

2-3 周遊コースの提案

ジオパークでは、個々の観光地を単発で案内するのではなく、一つのテーマでつないで地域の物語を紹介しています。そのために多くのジオパークでは、モデルコースを設定していますが、土佐清水ジオパークではモデルコースの公開に至っていません。本事業では、土佐清水ジオパークの物語が効果的に伝わるようなモデルコースを作成し、その公開を目指します。また、より環境負荷が少ない公共交通を利用したコースも併せて提案していきます。

取り組み	目標値	備考
①周遊モデルコースの作成と公開	2027 年度中の公開	
②環境に配慮した移動手段についての情報提供	2027 年度中の公開	
《連携団体》観光・ビジネス部会、観光商工課、公共交通事業者		

2-4 エリア玄関口での可視性の確保

2021 年の審査では、エリアの玄関口に当たる高知空港や高知駅でのジオパークの可視性が十分でないとの指摘がなされ、前期アクションプランではその改善を進めてきました。後期アクションプランでも引き続きエリア玄関口である高知市や四万十市等での可視性の向上を図ります。また、表示物だけでなく高知市や幡多地域を対象に広報イベントや観光案内に携わる方々向けに説明会等を実施し、エリア玄関口における土佐清水ジオパークの認知度向上を目指します。

取り組み	目標値	備考
①高知市、四万十市等での可視性の確保	適宜実施	2025 再審査 指摘事項 1 認定審査 指摘事項 7
②高知市、幡多地域での広報イベント・説明会の実施	2029 年度までに 2 回	2025 再審査 指摘事項 1 認定審査 指摘事項 7
《連携団体》高知県、幡多広域観光協議会、土佐くろしお鉄道、JR、高知龍馬空港、室戸 UGGp		

No.3 地場産品の魅力発信

ジオパークを経済的な発展に結びつけていくためには、地域の成り立ちと漁業などの地場産業との関係を踏まえた地域固有の商品のブランディングや開発も有効です。事業者と連携し、ジオストーリーをベースとし、地域の風土と調和し、環境負荷が少ない商品やサービスを生み出していきます。また、漁業分野とは積極的に連携し、ジオパークの考え方を取り入れ、専門家と連携しながら、持続可能な漁業を推進していきます。

3-1 ジオストーリーを活用したブランディング

当地域では「一黒潮と共に生きる一漁師が生まれる大地の物語」をテーマにしており、これまでも宗田節や清水さばなどをジオストーリーと関連づけて発信し、それらをテーマにしたジオツアーなども実施してきました。また、地域の事業者との連携強化を目指し、ジオパーク活動の PR に参加する事業者を認定する応援店制度の導入も進めてきました。しかし、現行の制度では応援店の良さが来訪者に十分伝わる仕組みになっておらず、制度の中身を拡充する必要があります。今後は、応援店の理念・基準を明確化し、そのブランドイメージを確立していきます。さらに、応援店をはじめ地域の事業者と対話を重ね、ジオパークの理念を共有するとともに、事業者のニーズの聞き取りも行いながら、持続可能な社会づくりにむけた事業や商品のブランディング化に共に取り組んでいきます。

取り組み	目標値	備考
①応援店のブランディング方針の策定	2027 年度までに実施	2025 再審査 指摘事項 2
②各応援店のブランディングの整理	2029 年度までにすべての応援店について実施	2025 再審査 指摘事項 2
③応援店の魅力発信・PV 作成	2029 年度までにすべての応援店について実施	2025 再審査 指摘事項 2 関連項目: 活気づくり 1-1④

《連携団体》観光・ビジネス部会、観光商工課、農林水産課、民間事業者

3-2 地域に根差した製品の魅力発信

一次産業は、地形や気候などジオの要素と大きく関連があり、暮らしの根幹を支え、自然とともにある産業です。一次産業分野の特産品にジオストーリーを用いたブランディングや、環境に配慮したサステナブルな事業の展開など、ジオパークと連携することでより価値を高めることが可能になります。協議会に参画する会員や事業者とも連携を深め、課題解決に取り組み、風土と調和した一次産業を推進していきます。また、地域の食材を使った製品の開発、地産地消や環境へ配慮した取り組みを実施する生産者や食品加工事業者、飲食店などとの連携なども進めていきます。

また、当地域ではこれまで、地域に伝わるお寿司などの郷土料理をイベントや広報を通じて発信してきました。「食」は人々を惹きつける分野でもあることから、引き続き、地域の食文化の掘り起こしと発信を進めていきます。

取り組み	目標値	備考
①第一次産業分野や地場製品の魅力発信	イベントの開催 年1回以上	2025 再審査 指摘事項 2

《連携団体》観光・ビジネス部会、地区、観光商工課、民間事業者

地域の活気づくりー地域ににぎわいときらめきをー

ジオパークは地域のボトムアップからはじまり、世界を巻き込むプログラムです。“Think globally, Act locally”（地球規模で考え、地域で行動する）という言葉のように、まずは、地域でつながり、地域から行動を起こしていきます。そして、日本全国、世界に広がるネットワークを通じて交流することで、地域での取り組みは世界に広がっていきます。ジオパークを通じて様々な交流や連携を生み出すことで、地域に賑わいを、そして、社会に変革をもたらしていきます。

No.1 広報広聴

ジオパークの理念や活動を知ってもらい、多くの人に共感してもらうため、また、地域のボトムアップによる活動の充実のためには広報・公聴活動が欠かせません。加えて、地域外への地域の魅力発信のためにも広報活動は重要です。より多くの方に土佐清水ジオパークについて認知・理解してもらうため、WEB や SNS、広報誌を使った情報発信や地域の団体などと協働によるイベントの企画や、意見交換会などの機会を作っていきます。

1-1 情報発信

現在、当ジオパークでは、市広報への連載や Web サイト、SNS 等を運用し、文字、写真、動画による情報発信を行っています。今後も、地域内外の官公庁や事業者と連携しつつ、それらを継続させ、質の高い情報発信を行っています。

情報発信の効果として以下のことを目指します。

- ① 地域内外におけるジオパーク活動の理解増進・認知度向上
- ② 地域の魅力発信
- ③ 季節ごとの特色発信
- ④ 来訪者への適切な情報提供

取り組み	目標値	備考
①ジオパーク・あしうだよりの発行	月1回発行	広報とさしみず掲載 2025 再審査指摘事項 1
②Web サイトの運用	・ 月 間 ユ ー ザ ー 数 (1,500→3,000) ・ PV 数 (5,000→10,000)	2025 再審査指摘事項 1
③SNS の運用	週1回以上更新	2025 再審査指摘事項 1
④YouTube チャンネルの充実 ジオツアーや応援店の PV 作成	チャンネル登録者数 1000 人	2025 再審査指摘事項 1 関連項目: 経済発展 1-2 ①、3-1③

1-2 講演会やイベントの実施

これまで、地域の魅力の発信やジオパーク活動への理解を広めるため、講演会やイベントなども多く開催してきました。今後はより計画的に実施していきます。この場合、より多数の参加者が見込まれる会場での対面参加と、インターネットを通じた遠隔参加を併用（ハイブリッド）を積極的に取り入れていきます。

取り組み	目標値	備考
① ジオパーク講演会の実施	年1回以上	
② 体験イベントの実施	年2回以上	
③ 地域住民との交流イベントの実施	年1回以上	
《連携団体》教育・啓発部会		

No.2 拠点施設の充実

土佐清水ジオパークでは、「竜串ビジターセンターうみのわ」（竜串 VC）を拠点施設として位置付けています。竜串 VC は、環境省が足摺宇和海国立公園内に整備した唯一のビジターセンターとして2020年に開館しました。当センターは環境省と土佐清水市との協定の下、土佐清水ジオパーク推進協議会が管理・運営を行っています。協議会事務局が竜串 VC に置かれ、観光コンシェルジュ、自然ガイドが常駐。環境省の自然保護官等と連携し、展示やイベントの企画や国立公園エリアの情報発信と共にジオパークの展示や大地の成り立ちを紹介しています。このような国立公園と連携した取り組みは 2025 年の再認定審査でも高く評価されており、今後、さらに連携を深め、ジオパークの魅力や価値を紹介する展示をより充実させます。

2-1 ジオパーク拠点施設の役割強化

現在、竜串 VC で年に6回程度実施している「自然ふれあい行事」の機会にジオパークの価値・魅力について発信を行い、また足摺宇和海国立公園の関係者との交流を進めるなど、竜串 VC のジオパーク拠点情報発信施設としての役割を強化します。また、地域資源の価値を体系的に整理し、地域資源を残していくためには収蔵施設が不可欠ですが、現在竜串 VC には収蔵設備がありません。そのため、収蔵施設の確保についても議論していく必要があります。

取り組み	目標値	備考
① 自然ふれあい行事での情報発信	年6回	
② あしうわ地域の情報収集・意見交換	年1回以上	
③ 収蔵施設の確保	-2029年度までに実施	
《連携団体》竜串 VC、環境省、顧問、アドバイザー		

2-2 ジオパーク展示等の磨き上げ

館内には常設のジオパークコーナーや、ジオサイトである竜串について紹介したパネルがあるほか、大地の成り立ちを示したプロジェクションマッピングなどの展示機能があります。しかし、展示物でジオパークのサイトであることが明示されていないものがあるなど、可視性に一部課題があります。今後、展示物へのジオパークロゴマークの明示等を実施し、可視性の向上に取り組めます。

取り組み	目標値	備考
①VC 展示におけるジオパークの可視性向上	2028 年度までに実施	2025 再審査指摘事項 1
②ジオパーク企画展示の実施	年 1 回以上	
《連携団体》竜串 VC、環境省、顧問、アドバイザー		

No.3 パートナリシップ・ネットワーク活動の推進

ジオパーク活動は地域の住民や多様な事業者や団体、研究者などの協働により進めるプログラムです。現在も多様な主体と協働で活動を進めていますが、それをより強固なものにしていけることが求められています。

3-1 研究機関、事業者、地域団体との連携促進

これまで地域団体と協働でいくつかのプロジェクトが進められてきました。現在、高知県立牧野植物園、高知県立清水高等学校、高知地方気象台、ジオガイド団体と正式にパートナーシップを締結しています。また、ジオパーク活動を実施・支援する事業者を「応援店」として認証し、地域の活性化を推進しています。今後も関係者との連携を進めます。2024～2025 年度には、環境省と連携して足摺宇和海国立公園の地域資源を整理した「あしうわ物語（ストーリー）」を制作してきました。今後は、「あしうわ物語」も活用しつつ、地域の事業者や関連団体との連携を進めていきます。

取り組み	目標値	備考
①各団体とのパートナーシップ協定の締結	6 件→12 件	
②応援店の拡大	30 件→60 件	2025 再審査 指摘事項 2
③あしうわ物語を活用した地域連携	適宜実施	
《連携団体》各団体、地域コミュニティ部会		

3-2 行政との連携促進

ジオパーク活動はまちづくりそのものに関わることから、行政の協力は必要不可欠です。まちづくりのあらゆる面でジオパークの理念や考え方を取り入れていくためには、行政との連携は必要不可欠です。国、県の指導を仰ぎつつ、市役所での職員研修や関係各課との協議の場を

持つなど、連携を深めていきます。

取り組み	目標値	備考
① 関係各課との意見交換	適宜実施	
《連携団体》環境省自然保護官事務所、県（観光政策課、地域観光課、自然共生課）土佐清水市各課		

3-3 ジオパークネットワークへの参画

ジオパークの活動は土佐清水のエリアだけの活動ではなく、ほかの日本全国のジオパークやユネスコ世界ジオパークネットワークと、ともに行う活動です。他地域との連携やネットワーク全体での活動を充実させ、日本、そして世界を視野に入れた活動を行うことで、ネットワーク全体の発展を目指します。また、中高校生をジオパーク全国大会等関連イベントに参加させ、他地域の生徒との交流を通じて土佐清水の魅力・価値を考えるきっかけとしたい。

取り組み	目標値	備考
①日本ジオパークネットワークでの連携	常時実施	
②ジオパークイベントへの中高生の派遣	年1回	2025 再審査 指摘事項5
③国際的なジオパークネットワークの活動に参加し、ユネスコ世界ジオパーク申請のための情報収集	年1回	
《連携団体》観光・ビジネス部会、観光商工課		

No.4 持続可能なまちづくり

ジオパークは地球を大切に思い、持続可能な社会を目指すプログラムです。そのため、様々な環境問題に積極的に取り組み、地域の事業者や住民の環境意識の高めていく必要があります。

4-1 地域内でのごみの削減、リサイクルの推進

近年、環境意識への意識がより一層高まり、マイバッグやマイボトルの持参も一般的になってきました。ジオパークに関わる事業の実施の際には、なるべく環境負荷の低い物品を調達することやゴミを増やさないよう工夫するなど、各自が取り組んでいきます。また、ジオサイトでのごみ拾いなどの清掃活動を実施し、海洋ゴミ問題などにも意識を高めていきます。

取り組み	目標値	備考
①海岸沿いサイトの清掃等の実施及び海洋プラスチック問題の啓発	-	
《連携団体》市民課環境室、環境省、研究機関		

4-2 生物多様性への理解を深める

土佐清水ジオパークには、地質的な要素だけでなく、そこで生きる生物も大切な要素です。土佐清水だけでなく、地球の生態系システムの生物多様性を守ることは、我々人類の健康で豊かな生活を守ることにつながります。現在も行っている希少動植物の保全や、生物多様性について地域の事業者や住民への啓発活動をさらに充実させます。

漁業に目を向けると、近年、土佐清水におけるメジカなどの漁獲量が著しく減少しています。この原因には周辺海域の環境変化だけでなく、気候変動や黒潮の潮流の変化、世界的な魚の消費動向の増加など、地球規模模の要因が背景にあります。土佐清水ジオパークは、漁業で発展し、海と共に生きるまちとして、この問題に率先して取り組む必要があります。漁業関係者や、行政、研究者と連携を図り、持続可能な漁業の推進を目指します。

また、土佐清水近海では古くから宝石サンゴ漁が行われています。特に過去 20 年ほどは中国の経済発展に伴う需要の拡大から、盛んに行われてきた背景があります。このことについては、2021 年の現地調査でも言及され、今後その保護・保全を進めるため、ジオパークの活動を活かすよう指摘されています。今後、漁業関係者や研究者、行政等と連携を図り、資源調査や、宝石サンゴの養殖に向けた研究など課題解決を行う必要があります。

取り組み	目標値	備考
①生物多様性・希少動植物の保全活動の継続	-	
②宝石サンゴ漁についての情報共有		認定審査 指摘事項 6
③宝石サンゴの資源保護と魅力の発信	年 1 回程度	認定審査 指摘事項 6
《連携団体》環境省、観光事業者、地区、研究機関		

No.5 持続可能な組織運営

UGGp 作業指針の基準には、「ユネスコ世界ジオパークは、国の法令のもとで法的位置づけのある管理運営団体を有する地域でなければならない。管理運営団体は、ユネスコ世界ジオパークのエリア全体を十分に扱うために適切な能力を有するべきである。」と記されています。この基準に見合うよう、2023 年に（一社）土佐清水ジオパーク推進協議会を設立し、従前市役所が担ってきたジオパーク活動の運営に係る事務を承継しました。しかしながら、必要経費については市からの補助金等に依存しており、今後は多様な収入源を模索し、持続可能な組織運営を実施していきます。

5-1 組織のあり方の検討

前述しているとおり、ジオパークの管理運営団体は、法人化しましたが、内部組織（部会）については従前のものを踏襲しています。今後は基本計画及びこのアクションプランに応じた部会構成となるよう内部組織のあり方について必要に応じ検討していきます。

取り組み	目標値	備考
①業務実態に合わせた部会構成の検討	-	
《連携団体》協議会各部会		

5-2 予算の確保

現在、協議会のほとんどの予算は市からの補助金により賄われています。ジオパーク活動によりお金を稼ぐ仕組みを構築することで、自主財源の確保に努めます。また、安定的に運営を行うため、助成制度などを活用した事業を展開していきます。以下に、後期計画期間に必要な予算額を示します。

取り組み	目標値	備考
①安定的な予算の確保	2026 年度 4,918 千円	ジオパーク活動の事業
	2027 年度 5,000 千円	費のみ
	2028 年度 5,000 千円	
	2029 年度 5,000 千円	
②収益事業の展開による自主財源の確保	-	
《連携団体》土佐清水市		

5-3 多様な人材の確保と育成

現在、土佐清水ジオパーク推進協議会は、以下の常勤職員で運営されています。今後も組織が同等、それ以上の能力を有するよう、スタッフの安定的な確保に努めます。また、それぞれのスタッフが今以上に能力を発揮できるよう、職場環境を整えとともに研修やノウハウの共有を行うなど人材育成に努めます。

取り組み	目標値	備考
①安定的な職員の確保	事務局長 1 名	
	専門員 2 名	
	事務局員 2 名	
	VC 専任職員 3 名	
②JGN 主催研修会への参加	-	
③研修の機会づくり	-	
《連携団体》協議会各部会、土佐清水市		

5-4 ジェンダーバランス、多様性の確保

現在、協議会事務局は女性スタッフの比率は25%、協議会社員の女性比率は15%程度で、協議会のジェンダーバランスには偏りが見られます。意思決定の場により多くの女性が参加できるよう、協議会の各社員団体と連携し、協議会におけるジェンダーバランスの実態把握や、問題意識の共有を行います。さらに、若い世代や多様な属性の人材の意見が反映される組織作りについても議論を行っていく必要があります。

取り組み	目標値	備考
①ジェンダーバランスや多様性の確保について協議会内での問題意識の共有	-	
《連携団体》協議会各部会、土佐清水市		

2026 年 3 月 5 日

一般社団法人 土佐清水ジオパーク推進協議会
理事長 橋本 敏男 様

日本ジオパーク委員会
委員長 中田 節也



第 56 回日本ジオパーク委員会審査結果通知書

2026 年 1 月 30 日に行われた第 56 回日本ジオパーク委員会において、貴地域は再認定となりました。その審議の過程における貴地域に対する委員会からの意見をまとめて、ここに通知します。

【総評】

日本ジオパーク新規認定審査時に指摘された事項について丁寧に検討し、それぞれの項目について改善が進められている。国際的に価値の高い地質遺産である足摺岬周辺の「ラパキビ花崗岩」や竜串海岸の「前弧海盆堆積物」について、解説板、ガイドマップ、ウェブサイトの説明が改善され、情報発信が進んだ。環境省と連携して運営する「足摺宇和海国立公園竜串ビジターセンターうみのわ」の案内看板をはじめ、エリア内の主要道路における誘導看板など、ジオパークにおける基盤整備が進んだ。ジオパークの専門知識を生かし、小・中・高校での教育や自然保全活動に協力するとともに、WebGIS（インターネット地理情報システム）の作成・公開を進めている。さらに、南海トラフ地震への理解を深め、防災意識を高める取り組みも進めている。若い世代の参加により、新しいジオツアーの開発も進みつつある。今後は、エリア内外でのジオパークの可視性をさらに高めるとともに、教育、保全、防災などの取り組みと連動させながら、ガイド団体、宿泊業者、エリア内外の観光事業者などと連携し、中長期的な視野で持続可能なツーリズムを進めてほしい。

【優れている点】

- ・足摺宇和海国立公園域内で環境省が設置した唯一のビジターセンターである「うみのわ」に事務局を置き、同施設を拠点として、教育・防災・保全分野で住民参加や学校との連携、調査研究など広範な活動を進めてきている。
- ・拠点施設「うみのわ」が立地する竜串地区では、宿泊業者や各施設と定期的に会合を行い、情報共有や事業実施に向けた協力体制を築いている。こうした連携により、環境美化活動などが進められ、地域の活性化にもつながっている。
- ・高知地方気象台と連携覚書を結び、情報共有、啓発活動、観測機器の点検協力などの体制を構築している。
- ・国土交通省中村河川国道事務所と調整し、エリア内に向かう主要国道沿いにビジターセンターへの案内標識が設置された。

- ・室戸ユネスコ世界ジオパーク、伊豆半島ユネスコ世界ジオパーク、南紀熊野ジオパークと連携し、「合同企画展：ジオパークでえがく黒潮の道」を開催している。また、四国西予ジオパークから小学生を受け入れて地元小学校との交流を行うほか、サンゴ保全活動を通じて喜界島ジオパークから帆船を受け入れるなど、ジオパークのネットワークを生かした活動を、機会を逃さず実施している。
- ・小・中・高校と連携し、地域の活動とも結びついた教育プログラムが、児童生徒の発達段階や地域の実情に応じて実施されており、教育分野で大きな進展がみられる。合わせて、こうした学習の効果についても、市教育委員会と協力して調査が行なわれている。
- ・基本地図やシームレス地質図など 9 種類の地図情報に、詳細地質図や植生図、津波浸水予想図など 7 種の図を重ねて表示できる WebGIS の作成公開をしている。この WebGIS では、サイトや自然災害伝承碑、説明板などの位置も確認でき、地域の自然や防災に関する情報を総合的に提供するツールとなっている。
- ・協議会を速やかに法人化したことが、活動の安定と柔軟性につながっている。

【今後の課題・改善すべき点】

I できるだけ早く解決すべき課題（2 年以内）

1. 看板、映像、印刷物、Web コンテンツなど、現在展開している様々な媒体、場所、機会において、ジオパーク名称やロゴの表示など基本的な可視性の向上を図ってほしい。
2. 公共交通機関でアクセスしにくい立地条件を逆に強みとして生かした、持続可能なツーリズムの発展が求められる。そのため、ジオガイドや宿泊事業者、エリア内外の観光事業者、高知県などの関係者との具体的な検討の機会を増やし、連携を深めながら、ジオパークとして統一的な取り組みをさらに広げてほしい。
3. 高齢化などによって継続が難しくなっている保全活動を今後も続けていくため、活動への理解者・協力者を増やすための方策を慎重に検討してほしい。

II 中長期的に解決すべき事項

4. 既存および今後設置する解説板などの情報提供媒体については、設置場所や目的を踏まえ、利用者にとって分かりやすく適切な内容となるよう、計画的に整備してほしい。
5. 地域の人口減少や少子化が進む中でも、ジオパークを活用して持続可能な発展を継続できるように、多様なステークホルダーとの連携強化を含めた方策を、中長期的な視野で検討してほしい。

以上で指摘した点や現地調査で指摘された点を含め、今後どのように改善するか、人や予算の裏付けとスケジュールを明記したアクションプランの形で、半年以内に日本ジオパーク委員会に報告してください。それらの進捗については、4 年後の再審査の際の審査対象とします。

以上